

## 市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民説明会（稀府）
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成30年7月27日（金）18時30分～20時30分 ・南稀府会館
所管部課名	企画財政部企画課
<p><b>【概要】</b></p> <p>&lt;出席者&gt;</p> <p>市：市長、副市長、教育長、総務部長、健康福祉部長、経済環境部長、建設部長、建設部参与、教育部長、教育部参与、議会事務局長、企画財政部長、企画課長、財政課長 住民：20名（別紙のとおり）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 市長挨拶</li> <li>3. 総合計画概要説明</li> <li>4. 意見交換</li> </ol> <p><b>【住民】</b></p> <p>本日の説明会は出席者の人数が少ない。今まで住民懇談会や説明会を1年間かけて行っているが、年齢別に分けたらどの層が一番多く、出席率が高いのか、出席者について調査はしているのか。というのも、総合計画の期間は10年と、スパンが長い。60歳以上の人は、これから10年は大丈夫なのだろうかということが一番の関心ごとである。計画期間は10年でないとだめなのか、5年ではだめなのか。60歳以上の人にとっては、10年は遠い話であり、身近には感じない。</p> <p><b>【市長】</b></p> <p>大きな目標の計画期間は10年だが、実施計画というものもあり、それに伴う細かいものは毎年見直しをしていく。例えば、高齢者の活躍をどうするかという場合に、最初に考えたことと、3年ぐらいたってから考えたことが変わったとしたら、実施計画の中で修正をかけることができる。</p> <p>説明会について、どの会場も高齢者が多いが、数年前にアンダー50ということで50歳以下の人を対象として、80人に集まっていた。その後、人数が多いと話す機会がなくなるので、80人を10人単位ぐらいにし、8回に分けていろいろな意見を聞いた。翌年は20人程度の希望者に集まってもらい、高校生のワークショップも実施して、さまざまな取組を若者にも関わっていただいた。説明会では高齢者が多いが、その前段では若い人にも参加していただき、ほぼすべての世代のご意見を聴き、丁寧に計画を策定してきた。今までは、役所が計画を作り、説明会をして終わるとというのが主な流れだったが、今回はやり方を変え、住民参加のプロセスを丁寧に行ってきた。</p> <p><b>【住民】</b></p> <p>説明会への参加率が悪いということは、魅力のないまちだからではないかと思う。</p> <p><b>【市長】</b></p> <p>市長になってからこれまでいろいろな会合に参加してきたが、景色が変わってきており参加</p>	

者も減ってきている。社会参加が減ったのは世代的な問題もあると思う。いわゆる団塊の世代から参加率が落ちてきた。おそらく、戦後に民主主義が入ってきて教育が少しずつ変わり、大きな変わり目が私たち団塊の世代だったのではないか。その前の世代の人たちと大きく違うのは、団塊の世代から個人主義が非常に強くなってきたのではないかと考えている。老人クラブ連合会がその典型的な例であり、伊達市だけではなく、全国で老人クラブの加入率がどんどん落ちてきている。

参加率が減っていることを放置するのではなく、どうすれば参加できる仕組みがつかれるかということが今後の大きな課題である。移住施策にも関連してくるが、やはりコミュニティが良くならなければ少子化問題も解決できない。コミュニティは非常に重要なので、コミュニティに参加できる仕組みと総合計画を併せて取り組んでいきたい。

#### 【住民】

概要版について、資料が柔らかく、行政っぽさがなく見やすい。

#### 【市長】

基本計画の分野別施策について、みなさんの生活に関わりがあるかどうか、関わりがあるならば実際の状況はどうか、という見方をしていただければと思う。

#### 【住民】

六次計画をどのように評価・総括して、どのように七次につなげてきているのか。行政は、よくいろいろな目標を立てるが、その結果・評価を明らかにしないので、我々のような評価をあまり知らない人間にもわかりやすく示して欲しい。

#### 【企画財政部長】

六次計画の実施計画は評価をしており、3年ごとの進捗状況をホームページで公表している。今回の第七次総合計画策定に当たっては、六次計画はまだ10年経っていないので、昨年までの全体的な事業の流れを総体的に評価し、目標値を達成したかどうかを庁内で事業毎に評価した上で、第七次に継続していくものは繋げていく、あるいは、事業が終了したものは終了したという旨を記載する形で評価する。

基本計画は、六次計画から継続していかなければならないものを記載し、また、今後新たにやっていかなければならない事業も盛り込んでいる。

#### 【住民】

ほとんどの人が伊達市のホームページを見ていないのではないと思う。六次計画における基本計画について、どういうことが具体的にできたのか、あるいはできなかったのかが示されると、みんなが納得すると思う。評価が見られないと、七次計画はただ抽象的に六次計画を網羅した内容としか捉えられないと思う。

#### 【企画財政部長】

六次計画の総括については、庁内で一つ一つの事業を評価しているが、資料は相当なボリュームがあるため今回はお示ししていない。3年ごとの実施計画については、ホームページのほか企画課の窓口にも冊子を置いている。

#### 【住民】

私は、伊達市に住んで21年目になり、その前は転勤などもあり七つの市町村に移り住んだ。今、どの地域にいても、どのまちに行っても少子高齢化という言葉が聞かれ、また、全国的

には東京一極集中、北海道で言えば札幌集中が起こっている。そうした中で、私が心配しているのはコンパクトシティの考え方で、効率化・合理化を狙ってまちを一点に集約させるということが気になっている。

たとえば、このまちに移住してくる人は田舎暮らしを求めている、若い人が自然に魅力を感じて住もうとしている。伊達の市街化地域は、決してそれほど便利なまちではなく、札幌の方がずっと便利なので、伊達が生かせるのは郊外地域だと思う。しかし、その郊外地域も少子化によって学校を統廃合している。

たとえば、稀府に当てはめると、小学校がなくなると今度はまち中に子どもを送り込まなければならない。そうすると、本州や道内の他の地域から伊達の郊外に住もうと移住してきた人も、学校のある地域、つまりまち中へ移り住んでしまう。高齢者にとって、便利だとか、医療機関があるからまち中に住むとか、短絡的に考えるとまち中に機能を集約させることは大事かもしれない。しかし、若い人がその地域に住もうとするためには、やはり学校を大事にしていかなければならない。それなのに、コンパクトシティということで学校をまち中に集めてしまうと裾野が縮まり、郊外地域がどんどん衰退してしまうのではないかと思う。

学校の統廃合について、たとえば学級の人数を減らすなど、さまざまな方法を考えるべきだと思う。高校も、せっかく自然環境の良いところに立地していたのをまち中に移動させてしまうのはどうなのか。やはり若い人が来たい、住みたいと思えるところにしなければいけないのではないか。

また、子どもが集まるところには大人も集まる。たとえば、秩父別町は巨大なジムをつくり、子どもも大人も集まり、年間7～10万人が利用していると聞く。伊達市でも、そうした人を集める取組を行ってほしい。

#### 【市長】

若い人が住むためには、産業、働く場所が必要である。

学校について、伊達市から市外の高校に行く生徒は47%近くいる。最近では、中高一貫校の進学のために札幌に行く子どもも増えてきた。市でなんらかの取組を行ったとしても、流出が続くということが現実に起きる。

大学設置の関連法案があり、日本赤十字病院（以下、日赤）の看護学校は定員が30人だが、最近では応募者が激減している。その理由を日赤の事務部長に聞くと、看護系の大学が増えたからとのことであった。現在、北海道の4年制大学の看護系の定員は1学年1,000人で、そのうちの7割が札幌圏である。札幌圏以外の看護系の大学は非常に苦戦している。もし文部科学省が圏域ごとに大学数や定員数を規制していれば、一極集中は起きなかったのではないか。

この看護学校の問題と同じようなことが私立大学でも言える。たとえば、ある東京の大学では学年の定員を15%オーバーまで認めているそうだ。しかし、地方の大学だとそもそも定員に満たない大学も多く、そうした定員の規制などを国が行わなければ、地方の大学はどんどん苦しくなる。いくら地方創生とは言っても、地方にも限界がある。

我々が言っているコンパクトというのは、強制的にまちの機能を集約するのではなく、それぞれの集落単位である程度まとまって住んだほうが便利が良いという考え方である。便利が良いという理由は、ある程度の年齢になった場合は車に乗らず公共交通に頼ることになるため、まちにまとまりがあれば効率的に生活ができ、負担も軽減できるからである。そのため、コンパクトシティはすべての機能をまち中に集めるという意味ではない。

伊達は、やはり郊外に人気があり、決して旧市街地はそれほど人気は無い。しかし、移住政策をやるにしても空き家が少なく、市で空き家をリフォームする際に補助を出す制度を始めたものの、あまり希望者は出ていない。

今後は、ある程度の集落単位で人口を増やしていくための政策をやっていききたい。そのためには、産業をしっかりとつくっていくことが今後の課題である。稼ぐ力についての方向性が決

まってきたので、力をいれて地域に振興・発展できるような施策を考えていきたい。

小中学校の統合は次元の違う問題で、適正配置や教員配置などがある。今回中学校を統合したのは、小規模小中学校では競争力がなくなるという地域からの声が圧倒的に多く、それに応えた形である。ただ、市としては統廃合を一方向的にやるつもりはない。それぞれの地域が、ある程度均衡に発展できるような取組をしていきたい。

**【住民】**

5のつく日は道南バスが農協まで走っており、非常に便利である。市として農協に対して何らかのサポートをしているのか。

**【市長】**

現在は、特にサポートはしていない。地域の公共交通は、ドア to ドアで家と目的地を結ぶのが一番良いと考えている。現在、乗り合いタクシーはあるが、さまざまな問題がある。タクシー会社の利益、運転手の利益、特に運転手は完全歩合制のため、乗り合いタクシーで我々が目指すのは乗り合い率である。乗り合い率を上げるために予約の仕方などを少しずつ改善してきたが、今度はサービスが悪い、運転手の態度が悪い、などと言われ、なかなか利用が進まない。

現在、交通資源調査を行っている。スクールバスを利用して何かできないか、どのような地域交通を実現できるかなどをタクシー会社やバス会社と連携し行っていきたい。

**【住民】**

J Aに行くとお客さんが少ない。私は、できるだけJ Aやウロコなど地元のお店などで買うようにし、微力ながら農協に対して少しでも協力していこうという姿勢でいる。

**【市長】**

市役所は公平公正でなければいけない。特に民間の事業者に対して、特定の業者だけに肩入れすることはできない。ただ、地元の声があれば検討しても良いかと思う。特に最近、企業にとって地域貢献が非常に重要な課題になっており、行政としても企業の取組を無視はできないので、民間支援については十分検討して慎重に判断していきたい。

**【住民】**

稀府地区のみなさんが一番心配しているのは、基本目標4「安心・安全で住み良いまちづくり」の「3 公共交通網の確立」において、自家用車がなくても安心して暮らせるまちという部分だと思う。自家用車を運転していると、どこへでも行けるという安心感があると思うが、同じ伊達市の中でも交通に対する考え方は違うと思う。

農協までのバスについて、移動手段のない人は、タクシーを使うよりは無料でバスを利用し、農協で買い物をしてお金を落としていただければ良いと思う。乗り合いタクシーもあるが、市としてバスを出してほしい。

現在、稀府小学校の統廃合の話がある。子どもをどうしたら増やせるか。稀府小学校に通わせたいから稀府地区に家を建てたという人もいる。子どもに対する手当てについても検討をお願いしたい。人は減っていくが帰ってくるまちにしたい。

伊達市は雪解けが早いので、運動合宿等を誘致するなど積極的にアピールした方が良いのではないか。

**【市長】**

高齢者だけではなく、特に若い人の移住の受け入れをやっていききたいと思っているが、市役

所は公平・公正なので土地や不動産に関して発言することはなかなか難しいため、民間組織にお願いしたいと考えている。

子育て支援については、今年から3年間限定で住宅支援を行っている。土地を買って家を作る場合に50万円の補助をする制度を始めたら、23件の応募があった。この制度は、今後も続けていきたいと考えている。

また、コミュニティをどう再構築するかが課題である。40代にも説明会などに顔を出してもらえるよう工夫が必要である。少子化の要因はコミュニティと言われているため、市がコミュニティを活性化させることが重要であり、また移住とコミュニティをセットで考えることも重要である。

#### 【教育長】

教員の数やクラスの数などについては国の基準があり、それに基づいて人件費が出ている。その基準を飛び越えて実施できないわけではないが、その場合は市ですべてやらないといけないため、財政規模を考えると厳しい。統合のことについては、子どもの数が減っており、男女比のアンバランスなどが続いている。子どもの将来を考えたとき、一定規模で切磋琢磨して学習できる環境のほうが良いと考えている。国が義務教育学校という新しい制度をつくったので、その制度を活用して教育環境を改善しようと考えている。

国は、数年前に小学校等における望ましい学級数規模の基準として、1学年2学級以上と示した。英語教育も始まっており、今後はプログラミングの導入もあるため、一定規模の施設などが必要となってくる。

また、現在は働き方改革の問題があり、学校が小さくなり、教員数が少なくなればなるほど、先生方のオーバーワークがさらに広がっていく。現在は、そうした学校を取り巻くさまざまな課題を考え、地域の人と意見交換をさせていただいている状況である。

#### 【住民】

稀府は良いまちだが、人口が減り高齢者が増えている。車が運転できなければ公共交通を利用することになるが、伊達のまちなかに住んでいる方より、移動にかかる運賃分、高い買い物をしている。我々稀府に住んでいる人にとっては、老後どのように生活していくかが課題である。市は稀府地区をどう見ているか聞きたい。

#### 【市長】

高齢者になると、夜の運転は距離感が取りづらく怖い。できるだけ公共交通で、安く便利に移動できるようにしたいと考えている。

稀府については、この地域に植物工場の誘致を考えており、成果が上がればいろいろな企業を呼べるのではないかと考えている。

伊達市のポテンシャルは高い。気候条件、地勢条件、土壌条件、起伏などを考えると、夏は涼しく冬は寒くないということはコストがかからないため、これらの条件を活かしたい。

また、宮蘭フェリーは伊達市にとってインセンティブがあると思う。北海道は特に食料供給基地と言われているが、伊達市は十勝や網走のような大規模な農業ではなく、ちょっと変わった農業の生産基地として発展できるのではないかと考えているので、既存の農家の皆さんも含めて、農業発展のための取組を進めていきたい。

#### 【住民】

公共交通について、札幌からJRで伊達紋別駅に帰ってきても稀府行きのバスの接続が悪い。上手く連結できれば良いと思う。また、バス停が暗く冬は寒いので、駅舎と連動して明るく、暖かくしていただけると助かる。

**【市長】**

これまでもバス会社には働きかけてきたが、バス会社にもいろいろな都合がある。すぐに改善できるかはわからないが、接続が良くなるよう継続して取り組んでいく。また、市民のみならず、自治会を通じて意見を出していただきたい。

**【住民】**

道の駅にある札幌行きのバス停について、悪天候の場合を考慮し、カーポートのようなプラスチックの壁のようなものを設置して欲しい。

**【市長】**

道の駅を通るバスは朝7時半の出発だが、道の駅の駐車場には利用者のもと思われる多くの車が停められており、道の駅関係者から苦情がきている。そのため、バスルートを変えたり、専用の駐車スペースを市で確保するなど、さまざまな対策を検討していきたい。

**【住民】**

高校生が提案したというネイチャーパークについて教えて欲しい。

**【企画課長】**

概要版P2に高校生の写真があり、「ネイチャーパークをつくりたい！」という吹き出しがある。去年の4月から、伊達高校と伊達緑丘高校で、将来のまちづくりについて考えるというワークショップを行った。ネイチャーパークは、緑丘高校の生徒からの提案である。具体的には、伊達市の自然を生かしたアミューズメントパークのようなものをつくり、その運営を高齢者に担ってもらい、利用する子どもたちとの交流も含めて、いろいろな世代が楽しめる施設ができるのではないかと内容であった。できれば民間の方に投資していただき、実現できればと思っている。

**【住民】**

他のまちではバス停がある程度統一されてきているが、伊達はばらばらであるため、統一できればよいと思っている。

**【市長】**

誰がバス停をつくったかにもよってくる。通学、通勤、病院運営のバス等、どの目的で走っているか、どこが運営しているかによって、バス停に違いが出ることもある。現在は移動手段が変わってきているので、交通資源について調査をしているところである。どのような人の動きがあるのかを踏まえ、ドア to ドアで結ぶ方法がないか、調査を進めている。

バス停を含めて、どのような公共交通が良いのかを検討し、乗り合いタクシーだけに依存しないしていきたい。ここは選択して集中する部分なのかと考えている。

**【住民】**

大きなソーラーパネルがまちのあちこちに設置されているのが気になる。条例などで設置を制限できないのか。

**【市長】**

東日本大震災が起きてから、国では、極めて高価な金額で買い取る固定価格買い取り制度というルールをつくった。しかし、この値段がどんどん下がってきて、さらに買い取り価格の制限もついてきたため、今後ソーラーパネルが大量に設置されるということは無いと思う。

どの土地で風力や太陽光を設置するかについては、国の法律があり、我々には権限がない。太陽光の設置については許可制度なので、要件さえ満たせば許可は下りるが、今後はいろいろな条件から設置が難しくなると思う。すでにできたものについては、存続するので仕方ない。

**【住民】**

災害に対する計画の問題について、昨年市内で水が溢れ、私の家の横にある牛舎川の護岸まで水がきた。床下まで水が入った家もあると聞いている。牛舎川や市内の川を見てみると、水位計も設置されておらず、整備が進んでいない。普段から河川改修などを計画して行って欲しい。水位計があると、避難の判断がしやすくなると思う。

**【建設部長】**

牛舎川は普通河川で伊達市の管理なので、予算の関係もあるが、できることからやっていきたい。水位計については、3～4千万円する。ただ、最近は簡易的なものも出てきているため、今後検討していきたい。

**【市長】**

普通河川は、市町村の管理で国の補助制度が一切ないため、全額市の負担となる。そのため、すぐに整備ができるとは言えない。ただ、去年は紋別川という普通河川の奥に国有林があり、そこで土砂崩れが起きて木が流されて橋に溜まるということが起きた。最近の気候をみていると、かつての定型を超えるようなことがある。さまざまな現象が起きることが予想されるため、河川の整備については災害対策も含め検討していきたい。

また、津波対策として、潮位計はないので、岸壁に監視カメラをつけて市で確認するようにしている。

**【住民】**

道路について、舗装してとは言わないが、狭いところがあるので拡張してほしい。草も生え、農機トラックがくると交差できない場所がある。特に雪が降ると、除雪が中央部分しかされていないため、更に道路幅が狭くなってしまう。

**【建設部長】**

除雪については民間に委託しているが、そういった状況が運転手に正確に伝わっていないと思われるので、場所を確認させていただきたい。